江戸城總攻め

帝キネ時代映畫

總指揮者　立花良介
原作者　眞山青果
脚色者　武内輯彬
監督者　志波西果
撮影者　立花幹也

——主要役割——

西郷隆盛　嵐璃德
山岡鐵太郎　明石緣郎
新門辰五郎　片岡童十郎
勝安房守　松本泰輔
益光休之助　草間實
村田新八　藤間林太郎
近藤勇　東良之助
沖田總司　吉頂寺光
徳川慶喜　若葉馨
小栗上野介　林誠太郎
蠧清之助　芝成太郎
朝尾東藏　藤野龍太郎
葦田軍介　高木新平
石井鐵太郎　金井龍三郎
椿岡順吉　日疋龍太郎
箟井伊藏　中村翫曉
土方才藏　藤浪麗三郎
永倉新八　蕃九郎
中村半次郎　中山介二郎
朴玖十郎　小阪信夫
パークス　星英府
おとく　小池春江
御用盜お辰　歌川るり子
お藤の方　松枝鵡子
加壽枝　平塚泰子
楓　泉闌子

解説——志波西果氏の入社第一回作品で、帝キネ創立十周年記念映畫である。

略筋——慶應四年三月初旬、伏見鳥羽の戰に幕軍を撃破した勤王各藩は精鋭を擧げて西郷吉之助を大總督府武家參謀に任じ、錦旗も堂々江戸城總攻めの大進軍を開始した。

德川十五代將軍は孤影悄然として御濱御殿に到着した。將軍を迎へた江戸城總裁職勝安房守は今は捕はれの身の西郷吉之助の懷刀であつた益光休之助の死刑を聞き愕然としてその赦免を嚴命するのだつた。江戸城に於いて大評定は開かれた。安房は將軍に恭順を奬め、小栗上野介等幕臣は極力最後の大戰を主張するのだつた。

當時江戸市民は或は一戰を主唱するもの、爭亂より逃れ行くもの等、鼎の沸く如き有樣であつた。この騷亂裡に新門辰五郎は安房と堅く誓ひ全市警戒の任に當つた。官軍の大進軍は既に駿府にあり、沿道の小旗本、近國の藩主は相次いで軍門に下つた。一方江戸では勝安房反對の主戰論黨は甲州地方の戰陣に脫走し行く者數知れず、勝が奔走も哀れ江戸の灰燼は目前に迫るのであつた。こゝに勝邸では山岡鐵太郎と益光休之助、勝の三人は熟議をこらした。山岡の至誠に動かされた益光は奮然と將軍の助命の大役に加る事となつた。

寫眞　「江戸城總攻め」帝キネ志波西果作品。右より草間實と歌川るり子。

甲州街道勝尾峠は近藤勇の新撰組の屯所となり、幕軍の脫走組と合し主力あなどりがたき處となつた。

江戸市民百五萬の運命を背負ふ山岡と益光は急遽駿府の西郷の許へ急ぐのだつた。途中幾多官軍の警戒嚴しき裡を益光が薩摩なまりはどんなに江戸の運命を救つた事だつたらう。

あゝ慶應四年三月十五日、江戸城總攻めに躍如したのは日本建國の日と變化して、官軍は東へ東へと大進軍を續けるのであつた。